

# 第9回平方北小学校再編検討協議会

1

## 【第8回 協議会の内容】（振り返り）

- ①協議報告書（素案）の構成について
- ②報告書の協議内容について
- ③報告書完成までの流れ

2

## 【第9回 協議会の内容】

①協議報告書（案）の変更点について

②別冊 資料集について

**①協議報告書(案)の変更点について**

## 協議報告書(案)の変更点

- ① 別紙「修正一覧」のとおりに内容を修正
- ② 「はじめに」、「4. まとめ」の章に内容を追加

## 修正一覧の抜粋について(委員の意見の追加)

ページ	修正内容	対応方法
5P	あくまで現行の枠組みでの話であることを追記	論点 1 学校規模の考え方の委員意見に以下を追加 ◎小学校は避難所機能などを備えた社会的資源であり、適正規模で区切って統廃合を含めた再編を検討していくのは疑問である。
7P	「教員の増員によって解決出来る事があるのでは？」といった意見を追加	論点4 教職員一人当たりの校務分掌の負担に以下の意見を追加 ◎スクールサポーターなどの人員を増やし、小規模校の教員負担を軽減することはできないのか。
10P	「子育て空白地区が生まれるのでは？」といった危惧などが書かれていません。	論点10 「平方北小学校の児童が他校へ編入する」手法に以下の意見を追加 ◎地域から学校がなくなった場合、子育て世代に選ばれない地域になってしまうのではないか。

## 修正一覧の抜粋について(内容の修正)

ページ	修正内容	修正前	修正後
6P	子供を主体としたメリット・デメリットに修正する。	○メリット ・一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。 (中略) ・異なる年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる	○メリット ・学習状況や学習内容の定着状況にあった補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導を受けやすい。 (中略) ・異なる学年との交流がしやすい。
		○デメリット ・クラス替えが全部又は一部の学年でできない。 ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない ・クラブ活動や部活動の種類が限定される。 ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。	○デメリット ・クラス替えが全部又は一部の学年でできない。 ・単学級の場合クラス同士で切磋琢磨する機会がない。 ・クラブ活動や部活動の種類が限定される。 ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。

## 修正一覧の抜粋について(内容の修正)

ページ	修正内容	修正前	修正後
8P	小規模にもメリットがあるがデメリットが大きいため適正規模化が必要という文が気になる。	小規模校にもメリットがあるがデメリットが大きいため、適正規模化が必要である。	小規模校の良さはあるが、集団の中での切磋琢磨や多様な人間関係を保障するために、適正規模化が必要である。
8P	教員負担が大きいこと→クラス同士が切磋琢磨する活動が難しいことに変更する。	デメリットは、教員負担が大きいことやクラス替えができないことである。	一方デメリットは、クラス同士が切磋琢磨する活動が難しいことやクラス替えができないことである。
8P	「結果の伝え方を慎重に」「アフターフォローを重視」などの文言を足すか、「責任」の部分を変える	子供への意見聴取は必要だが、それによって再編の是非や方法を決めてしまうと子供に責任を取らせてしまうような形になってしまう。	子供への意見聴取については、実施時期やアフターフォローを含め慎重に検討すべきである。

# 修正一覧の抜粋について(内容の修正)

ページ	修正内容	修正前	修正後
13P	「大石南中学校を選ぶ人が減ってしまうかもしれない。」を「偏ってしまう可能性がある」などにしたほうがいいかもしれません。	◎選択制の場合、 <b>太平中と大石南中を比較して、大石南中学校を選ぶ人が減ってしまうかもしれない。</b>	◎選択制の場合、 <b>太平中学校と大石南中学校で人数が偏ってしまう可能性がある。</b>

# 修正一覧の抜粋について(その他)

ページ	修正内容	対応方法
3P	児童数の推移のグラフの縦軸、横軸に単位を入れる。項目名を横にする	下図の通り修正 縦軸、横軸に単位を入れた。項目名を横にしたことにより隔年ごと⇒5年ごとの表示にした。
3P	図1-2に令和8年以降の予測値を追加する	図1-2ではなく、図1-1に予測値を追加した。

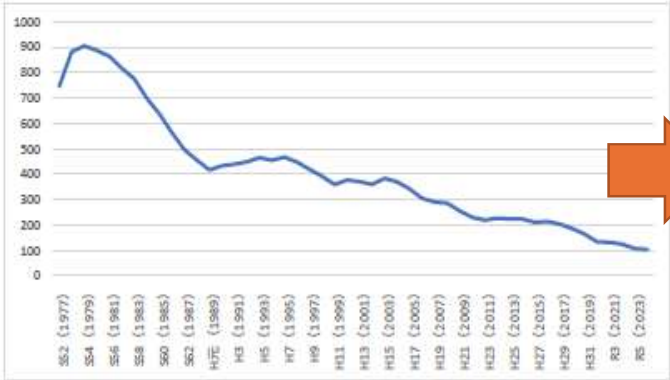


図1-1 平方北小学校の児童数の推移

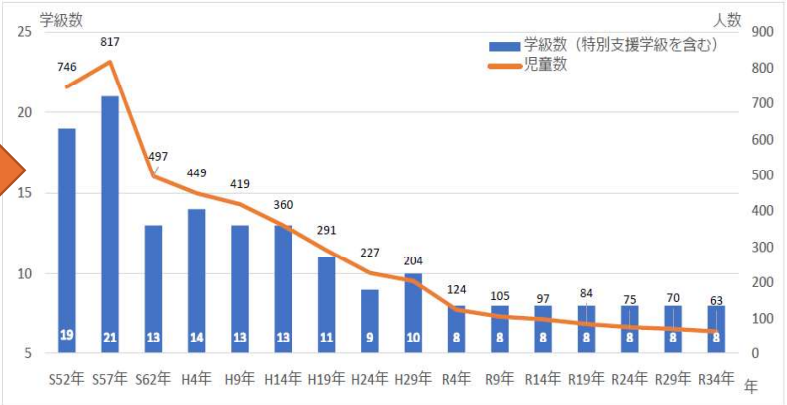


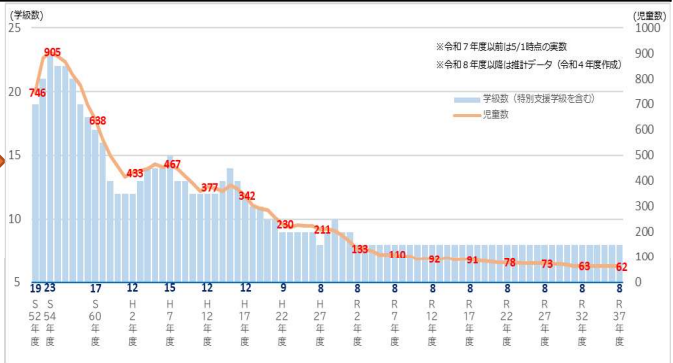
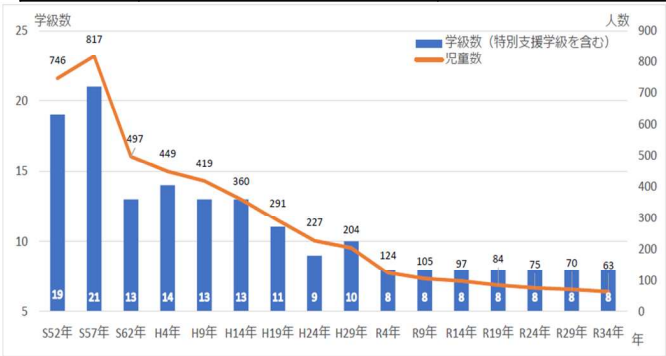
図1-1 平方北小学校の児童数・学級数の推移

# 修正一覧の抜粋について(その他)

ページ	修正内容	対応方法
3P	施設概要に老朽化状況を追加	基本計画P26の老朽化状況を元に以下の文言を追加。 「老朽化状況：築年数が40年以上経過しており、校舎においては屋根や屋上、外壁が広範囲に劣化している。詳細は学校施設更新計画基本計画を参照。」
全体	論点ごとに第〇回協議事項と注釈をつける	(事務局からの情報・説明)の横に、「※第〇、△回協議事項」と追記

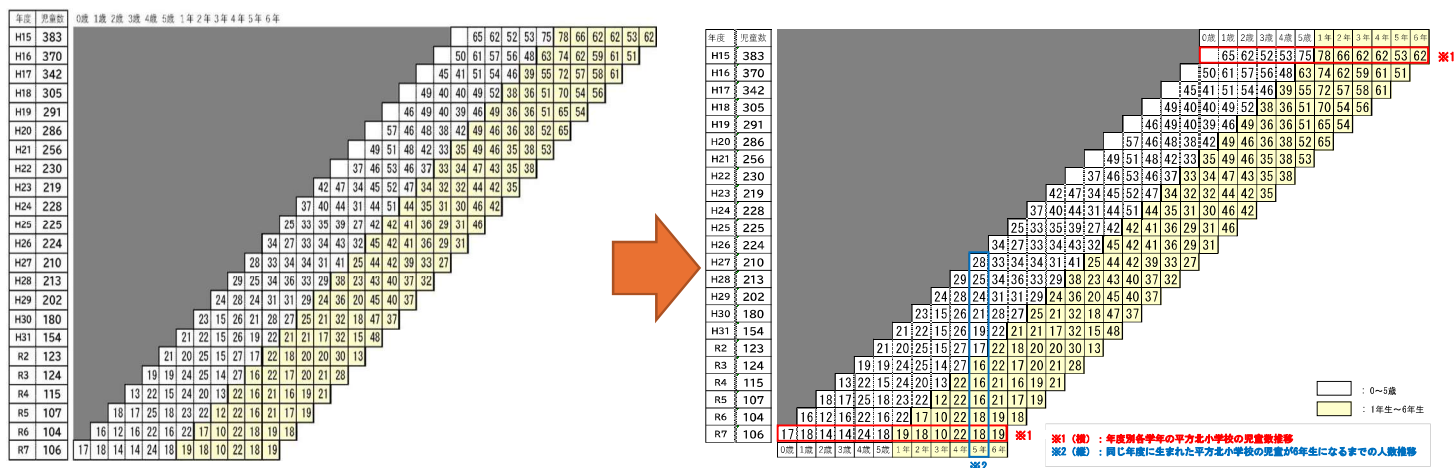
# 1月の確認依頼以降の変更点について

ページ	修正箇所	修正前	修正後
3P	5ページ (2) 4行目	西上尾第一団地(昭和43年)や西上尾第二団地(昭和45年)の建設に伴い、付近の児童数が増加したため、平方小学校、平方東小学校、大石南小学校の通学区を分離して、平方北小学校が開校しました。	西上尾第一団地(昭和43年)や西上尾第二団地(昭和45年)の建設に伴い、付近の児童数が増加したため、平方小学校、平方東小学校、大石南小学校の通学区を分離して、 <b>昭和52年4月</b> に平方北小学校が開校しました。
3P	図1-1児童数・学級数の推移	<ul style="list-style-type: none"><li>・5年ごとでは図の上記に記載している文章の確認ができない。 →各年度表示し、ラベルのみ5年ごとに表示。</li><li>・データについての注釈を追加(集計の基準日、何年から推計のデータか)</li></ul>	



# 1月の確認依頼以降の変更点について

ページ	修正箇所	修正前	修正後
4P	図 1 - 2 平方北小学校の児童数推計・通常学級児童数の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>表をどのようにみればいいかわかりづらい→表の見方がわかる注釈を追加</li> <li>学年や年齢のラベルを見やすい位置に移動</li> </ul>	



# 1月の確認依頼以降の変更点について

ページ	修正箇所	修正前	修正後
5P	論点 1 事務局からの情報・説明	○アンケート結果や国の基準、学校施設の配置状況、今後の児童生徒数の動向から子供たちの学びに望ましい学校規模を「12学級以上18学級以下（特別支援学級を除く）」と定めている。	○ <b>基本計画</b> では、アンケート結果や国の基準、学校施設の配置状況、今後の児童生徒数の動向から子供たちの学びに望ましい学校規模を「12学級以上18学級以下（特別支援学級を除く）」と定めている。
6P	論点 3 小規模校のメリット	・学習状況や学習内容の定着状況にあった、 <b>補充指導</b> や個別指導を含めたきめ細かな指導を受けやすい。	・学習状況や学習内容の定着状況にあった <b>補充指導</b> や個別指導を含めたきめ細かな指導を受けやすい。
8P	論点6 ○の 4 行目	○平方北小学校の実際の再編方法としては、平方北小学校の児童を増加させることで学校規模を適正な規模とする「通学区域を拡大し他校の児童を平方北小学校へ編入する」手法と、逆に、平方北小学校の児童を隣接する他の学校に編入する「平方北小学校の児童が他校へ編入する」 <b>手法の 2 種類の方法</b> が考えられる。	○平方北小学校の実際の再編方法としては、平方北小学校の児童を増加させることで学校規模を適正な規模とする「通学区域を拡大し他校の児童を平方北小学校へ編入する」手法と、逆に、平方北小学校の児童を隣接する他の学校に編入する「平方北小学校の児童が他校へ編入する」の <b>2種類の手法</b> が考えられる。

# 1月の確認依頼以降の変更点について

ページ	修正箇所	修正前	修正後
10P	論点10 〔シミュレーション結果〕の3行目	・平方北小学校の児童の編入により、大石南小学校は10学級から12学級となり、小規模校から適正規模校になる一方で、平方小学校は10学級から11学級に増加するが、適正規模校の学級数を満たせない結果であった。また、平方東小学校は12学級から13学級となり、適正規模校を維持する結果であった。	・平方北小学校の児童の編入により、大石南小学校は10学級から12学級となり、小規模校から適正規模校になる一方で、平方小学校は10学級から11学級に増加するが、適正規模校の学級数を満たせない結果であった。また、平方東小学校は12学級から13学級となり、適正規模校の学級数を維持する結果であった。
12P	論点1 1 委員からの意見	◎在校生については同じ学校へ編入となるので人間関係を維持できるのが良い。	◎在校生については全員同じ学校へ編入となるので人間関係を維持できるのが良い。

## 4. まとめの内容について

### 1. 学校規模の適正化に関すること

- ・小規模校の良さはあるが、集団の中での切磋琢磨や多様な人間関係を保障するために、適正規模化が必要である。

### 2. 学校再編の方法に関すること

- ・学校規模適正化の方法としては、「通学区域を拡大し平方北小学校に児童を編入させる」手法よりも「平方北小学校の児童が他校へ編入する」手法の方が現実的な方法である。

### 3. 再編に伴う影響に関すること

- ・「平方北小学校の児童が他校へ編入する」手法の場合は、通学区域を分ける方が望ましいが、区域外の学校にも通学できる特例措置を設定することが望ましい。
- ・通学区域を分ける場合において、特例措置として選択できる小学校については、距離の近い学校のみ選択できる方が望ましい。また、再編時の在校生とそのきょうだい児が通う中学校については、選択制とするのが望ましい。
- ・特例措置の対象者については、再編時の在校生とそのきょうだい児に限る方が望ましい。

### 4. その他

- ・再編は段階的に実施するのではなく、準備ができ次第行うのが現実的である。
- ・夏場などの児童の安全性を考えた通学バスについては、学校再編の検討とは切り離し、市全体の小中学校で検討することが望ましい。



# 質疑応答

17

## ②別冊資料集について

18

## 別冊資料集

### 平方北小学校 再編検討協議会 協議報告書 別冊資料集

平方北小学校再編検討協議会の資料をとりまとめた冊子。主に、会議録、会議資料、ニュースレターなどを掲載します。

報告書にこれらの資料をつけると、ページ数が膨大になるため別冊としています。

## 別冊資料集の掲載内容

P 1	会議録、会議資料、ニュースレター（7回分）
P 2 4 7	検討協議会設置条例
P 2 4 9	検討協議会委員名簿
P 2 5 0	学校要覧
P 2 5 4	通学区域図
P 2 5 5	参考資料の紹介

# 質疑応答